

華日辞典カード十四万枚

友好協会内山理事長あてに、中国人民保衛世界和平委員会劉貫一秘書長から「日中国民の文化交流の贈物として華日辞典の原稿をおくる」むねの便りがあつた。

この華日辞典の原稿というのは、上海にあつた東亜同文書院大学で昭和五年ごろから計画され、これまで最大、最善のものと定評ある「中国辞典」をしのぐ完全なものをつくる予定であつた。計画には当時の同文書院大学長本間喜一氏（現愛知大学長、本協会評議員）ら日本人教授十人に中国人の教授も参加、あらゆる中国辞典などをあつめて原稿のカードを作っていた。終戦のおり原稿は大学の資金とともに国民政府に接收され、その後わからなくなつていたので本間学長らはあきらめきれず、内山理事長を通じて探していたが、内山さんは昨年春、在華邦人の帰国交渉で北京に行ったときにも郭沫若氏に会つてお願いしていたのがこのほど実を結んだものである。劉貫一氏からのたよりによると、カードは敵産として接收したのだが、とくに文化交流の贈物としましょうとのことで、講和もまだ成立していない交戦状態継続中の国の国民にたいし、このような措置がとられたことは歴史上稀有のことであり、関係者はもとより、日本文化界の大きな感激をよびおこしている。のこされた問題は、この好意にこたえて一日も早く受取りの船を用意することであり、当の愛知大学はもちろん日本学術会議その他文化界の協力によつて政府に交渉して特別の措置をとることが要望されており、これを機会に学術交流を活発にするための文化使節の交換や日本側からの中国の貴重な美術品で戦時中のどさくさに日本にもちかえられたものの返還の声もおこっている。

劉氏から内山氏への便り

日本中国友好協会理事長内山完造先生

貴方が本会郭沫若主席に出された手紙うけとりました。貴方が過去上海において編集された「華日辞典」のカードの件について私たちは各方面をさがしましたがすでに関係部門の協力によりさがしだすことができました。

この「華日辞典」のカードは日本が投降したときに国民党の国立編訳館に接收され、当時すでに一部が遺失されておりましたがなお十四万枚が保存されており、開放後わが国の人民政府に接收されたものであります。

この辞典カードは敵産として没収したものであり、本来ならば、おかせしできないものであります。中日両国人民の友誼と、文化交流促進の見地から、今はわが会がうけとり、文化交流の贈物として、日本の方々にはわが会からお送りするものです。

私たち相互の協力により中日両国人民間の文化交流が日ましに発展し、両国人民間の友誼の日まし強固なることを信じております。かなりの数にのぼるこのカードを郵送す

ることは不便でもあり、万一、遺失するがごときことになればきわめておしいことであるので、どのようにしてお送りしたらよろしいか、なにとぞご返事ください。以上
敬礼

中国人民保衛世界和平委員会

秘書長 劉 貫 一

一九五四年四月十日

〔注〕 日中友好協会機関紙「日本と中国」一九五四年六月十一日号所載。